



## 実質収支 11.3 億円の黒字

### - 平成 30 年度決算のポイント -

平成 30 年度の財政運営は、歳入面では税収入の確保や受益者負担の適正化等を進め、財源の確保に努めるとともに、歳出面では支出の適正化や事務事業の見直しを徹底し、重点化・効率化を図りました。

その結果、一般会計の実質収支は、11 億 3,100 万円の黒字を確保することができ、単年度収支、実質単年度収支とも平成 29 年度に続き、いずれも黒字となりました。

今後も健全な財政運営を継続するため、歳入の確保や歳出の適正化に努めます。

#### ■ 一般会計の概要

《決算収支の推移》

(単位：百万円)

年度	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
歳入	37,127	38,755	37,968	36,939	37,178
歳出	34,606	37,583	37,087	35,886	35,119
実質収支	1,915	917	682	905	1,131
単年度収支	49	▲ 998	▲ 235	223	226

平成 29 年度に比べ、歳出は、私立保育所施設整備助成費や小学校施設整備事業費、公債費などが減少しましたが、学研高山地区第 2 工区用地購入費や減債基金積立金などが増加しました。

一方、歳入は、臨時福祉給付金など国庫補助金や市債などが減少しましたが、市民税や基金繰入金、前年度繰越金などが増加しました。

#### ■ 特別会計の概要

全ての特別会計（公共施設整備基金、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療、下水道事業）で黒字あるいは収支均衡となりました。

#### ■ 財政関係指標等

##### ◇ 財政指標

・経常収支比率は社会保障関係費や全国的な下水道事業への繰出基準の変更による経常的な繰出金の増加により、93.5%で1.8ポイント悪化しました。

・実質赤字比率は-1% (△4.99%)、連結実質赤字比率は-1% (△28.40%)、実質公債費比率は2.5%、将来負担比率は-1% (△77.5%) となりました。早期健全化計画の提出を義務付けられる比率をすべて下回っており、良好な状況です。

##### ◇ 市債残高は減少

・普通会計の地方債残高は、177 億 2,100 万円で、新規の借入が減少したことなどにより前年度から 7 億 6,100 万円減少しました。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市財政経営課（課長 岡田、課長補佐 小澤） ☎0743-74-1111(内線 271)